

協議事項31

神戸市学校給食委員会について

神戸市学校給食委員会について、協議事項として別紙のとおり提案する。

令和元年11月11日提出

神戸市学校給食委員会について（経過報告）

1. 概要

(1) 開催趣旨

本委員会は、神戸市立学校における学校給食の円滑な運営及び食育の推進を図るため、学校給食に関する課題及び食育について専門的な見地、保護者及び学校関係者等から幅広く意見を求めることを目的として開催する。

昨年度までは、小学校給食と中学校給食それぞれ別々に、同様の趣旨の有識者会議を設けて議論していたが、他都市の状況等も踏まえ、学校給食について一体的・効率的に議論を行うため、今年度より既存の2つの有識者会議（「小学校給食・食育推進委員会」、「神戸市中学校給食運営会議」）を統合して実施している。

(2) 委員名簿

区分	分野	役職等	名前	部会
有識者	学識経験者	大阪府立大学名誉教授	植村 興	小・中
		甲南大学経営学部教授	西村 順二	小・中
		神戸学院大学栄養学部助教	小林 麻貴	小・中
保護者	PTA	神戸市立小学校PTA連合会会長	増田 隆志	小
		神戸市立中学校PTA連合会会長	野間 勝彦	中
		神戸市立特別支援学校PTA連合会会長	青木 里美	小
学校	小学校長代表	真野小学校長 舞多聞小学校長	前川 義弘 篠原 亜紀	小 小
	中学校長代表	上野中学校長 塩屋中学校長	白井 俊彦 清水 三千代	中 中
	特別支援学校長代表	青陽東養護学校長	河地 満則	小
行政	教育委員会事務局	学校支援部長	荒牧 重孝	小・中
	(一財)神戸市 学校給食会	常務理事	山本 英子	小・中

2. 開催内容

(1) 第1回神戸市学校給食委員会（総会）

- ・日時：令和元年8月28日（水曜）午前9時00分から午前10時30分
- ・場所：神戸市役所本庁舎3号館3階大会議室
- ・議事：(1) 令和元年度神戸市学校給食の概要
(2) 食育の推進及び学校給食の取り組み
(3) 小学校・特別支援学校給食の現状と課題
(4) 中学校給食の現状と課題
(5) 検討に関する項目（案）の確認
(6) 今後のスケジュール

(2) 第2回神戸市学校給食委員会

①小学校・特別支援学校給食部会

- ・日時：令和元年9月27日（金曜）午後1時00分から午後2時30分
- ・場所：神戸市総合教育センター7階 703号室
- ・議事：(1) 小学校・特別支援学校における給食を通じての食育の推進
(2) 令和元年度における学校給食情報発信事業について
(3) 学校給食の内容の充実
(4) 文科省・学校給食摂取基準について
(5) 消費税率の改定等の影響について
(6) 特別支援学校の給食について

②中学校給食部会

- ・日時：令和元年9月27日（金曜）午前10時00分から午前11時30分
- ・場所：神戸市総合教育センター7階 703号室
- ・議事：(1) 中学校給食に関するアンケート結果の報告について
(2) 中学校給食に関するアンケート結果の分析・考察について

(3) 第3回神戸市学校給食委員会（中学校給食部会）

- ・日時：令和元年10月18日（金曜）午後2時00分から午後3時30分
- ・場所：神戸市総合教育センター6階 601号室
- ・議事：(1) 中学校給食に関するアンケート結果（今後の魅力化に関する設問）について
(2) 中学校給食の魅力化に向けた検討項目（案）について

(4) 第4回神戸市学校給食委員会（中学校給食部会）

- ・日時：令和元年11月1日（金曜）午前10時00分から午前11時30分
- ・場所：神戸市総合教育センター6階 601号室
- ・議事：(1) 中学校給食の魅力化に向けた給食内容の充実（案）と必要経費について
（必要経費のシミュレーション）
(2) 中学校給食における牛乳の提供について

(5) 第5回神戸市学校給食委員会（総会）

※日時：令和元年11月開催予定

3. 小学校・特別支援学校給食に関する検討について

(1) 小学校・特別支援学校における給食を通じた食育の推進

平成31年3月に「食に関する指導の手引き」の改定がおこなわれ、第二次改訂版が配布された。改定のポイントとしては、食に関する資質・能力を踏まえた指導の目標の明示や「食に関する指導にかかる全体計画」の中で、どのように給食を位置づけていくかという点であり、健康教育課としては各学校に今年度中に学校に周知することを予定している。全体計画が達成され、改善した上でPDCAサイクルをまわした方がよいという意見があった。

(2) 令和元年度における学校給食情報発信事業について（新規事業のみ抜粋）

①学校給食レシピ本（仮称）の発行

- ・概要 神戸市でも神戸の特産食品も紹介するなど、神戸らしさを織り交ぜた視覚でも分かりやすい書籍を作成し、学校給食の魅力等を発信する。
- ・発行部数 3,000部（学校図書館へ1部ずつ提供）
- ・価格 1,000円（税込）
- ・販売日 令和2年1月25日（土）、26日（日）から学校給食PRイベントで初売り後、一般書店にて販売。
- ・内容（予定） 神戸の学校給食70年のあゆみ、学校給食が子供たちにとどくまで、地産地消、給食に関わる職員の紹介等

②広報KOB Eでの隔月連載

令和元年5月号から広報紙全市版で「栄養満点！知恵満載！おうちで食べたい学校給食レシピ」をテーマに給食レシピを奇数号に紹介している。

③神戸市学校給食70年記念イベントの開催

- ・概要 2020年1月25、26日に全国学校給食週間（1月24日～30日）にあわせて神戸市学校給食の70年を記念してPRイベントを行う。
- ・日時 令和2年1月25日（土） 11:00～17:00
26日（日） 11:00～15:00
- ・場所 ハーバーランドスペースシアター
- ・内容（予定） 中学校給食試食体験、学校給食レシピ本お披露目・販売、学校給食70年のあゆみ展示、学校給食オリジナル食品試食、食育体験等

(3) 文部科学省・学校給食摂取基準の改正

平成30年8月1日の改正（神戸市の献立には令和元年度より反映）により、各項目の数値の変更とマグネシウムの項目が追加されており、献立作成において考慮する必要があるが、平成31年4月～令和元年11月に関して、エネルギーや主要栄養素について検証した結果、ほぼ基準を満たしているため、引き続き文科省基準を満たしつつ、魅力あるこんだてを検討していくよう意見があった。

平成30年8月1日改正版基準

	文科省摂取基準 中学年	
	改正後	改正前
エネルギー kcal	650	640
たんぱく質 ※（ ）内は範囲	摂取エネルギー-全体の 13～20%	24g (18～32)
脂質 %	摂取エネルギー-全体の 20～30%	摂取エネルギー-全体の 25～30%
ナトリウム（食塩相当量）g	2未満	2.5未満
カルシウム mg	350	350
マグネシウムmg	50	—
鉄 mg	3	3
ビタミンA μgRAE	200	170
ビタミンB1 mg	0.4	0.4
ビタミンB2 mg	0.4	0.4
ビタミンC mg	20	20
食物繊維 g	5.0以上	5

（４）消費税率の引き上げ

令和元年度 10 月消費税率としては 10%に引き上げされているが、食材に関しては原則、軽減税率 8%が適用される。ただし、軽減税率が適用される品目についても、税率改定に伴う事務コストや配送にともなう燃料費等の経費の上昇により、食材価格に影響が出る可能性も考えられる。

しかし、現時点では不透明な部分も多く、引き続き食材価格の影響を注視していくよう意見があった。

（５）特別支援学校の給食について

中・高等部は、主食は小学校平均より精米・小麦各+10g 増量、副食は 1.2 倍増量しているが、平成 24 年 4 月施行の「神戸市立特別支援学校における学校給食運営要領」に定めた主食の増量（現行から+5g）が未実施である。また、「文部科学省・学校給食摂取基準」の栄養価を踏まえつつ、適正な量及びその受益と負担のあり方について、長期的に検討していくことになった。

（６）給食費の改定について

文部科学省・学校給食摂取基準については、現在、ほぼ基準を満たした給食提供ができていることと、消費税率の改定にともなう食材価格への影響については、不確定要素が多く、引き続き食材価格への影響を注視すべきという点から、現時点では給食費改定は早急ではないかという意見をいただいた。

4. 中学校給食に関する検討について

(1) アンケート結果を踏まえた魅力化の検討

令和元年6月に実施したアンケート結果を受けて、既存のメニューの拡充や他都市事例等を参考にしながら、魅力化に向けた検討項目（案）について検討を行った。

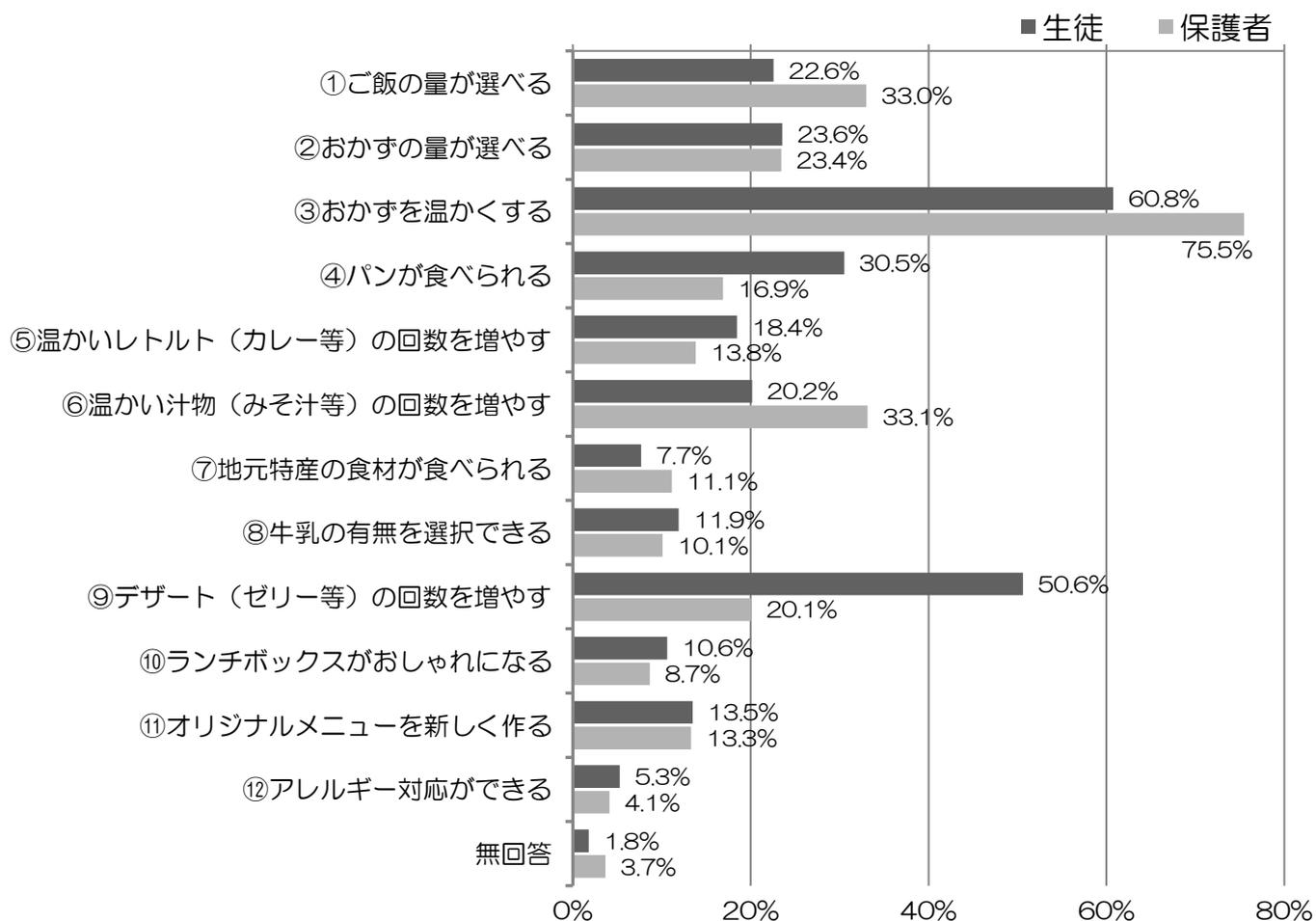
委員からは、中長期的な観点から、実施方式についての議論も必要という意見があったが、一方で、実施方式の見直しには多額の財政負担も伴うため、まずは現行方式を前提とした魅力化の取り組みを早急に進めていく必要があるという意見があった。

また、食材費の高騰や消費税率の改定等の状況を踏まえ、給食費の改定がなければ、中学校給食の魅力化は難しいのではないかと、その上で、魅力化に向けてできるものは全部実施すべきではないかという意見もあり、具体的なモデルケースを提示したうえで議論を行うこととなった。

なお、アンケート結果では、生徒と保護者の意見に差異がある回答項目もあるが、給食を実際に食べる生徒の意見を優先的に尊重すべきという意見があった。

<アンケート結果（今後の魅力化に関する設問）>

問：給食が今度、どう変われば良いと思いますか。給食を利用していない方はどんな給食であれば魅力を感じますか（3つまで回答）。



《アンケート結果》

	回答率		
	順位	生徒	保護者
① ご飯の量が選べる	5	22.6%	33.0%
② おかずの量が選べる	4	23.6%	23.4%
③ おかずを温かくする	1	60.8%	75.5%
④ パンが食べられる	3	30.5%	16.9%
⑤ 温かいレトルト(カレー等)の回数を増やす	7	18.4%	13.8%
⑥ 温かい汁物(みそ汁等)の回数を増やす	6	20.2%	33.1%
⑦ 地元特産の食材が食べられる	11	7.7%	11.1%
⑧ 牛乳の有無を選択できる	9	11.9%	10.1%
⑨ デザート(ゼリー等)の回数を増やす	2	50.6%	20.1%
⑩ ランチボックスがおしゃれになる	10	10.6%	8.7%
⑪ オリジナルメニューを新しく作る	8	13.5%	13.3%
⑫ アレルギーマッチング対応ができる	12	5.3%	4.1%



魅力化に向けた検討項目(案)

(1) 温かいメニューの提供

- ・ 既存メニュー (レトルトメニュー・汁物)の拡充
- ・ 提供方法の工夫 (保温・再加熱)

(2) 主食の充実

- ・ 主食のバリエーションの充実 (パンやナンの提供)
- ・ 主食の価格上昇への対応

(3) 副食のさらなる充実

- ・ 特色あるメニューの充実 (行事献立・郷土料理・外国料理など)
- ・ オリジナルメニューの提供 (神戸メニュー、中学生アイデアメニューなど)
- ・ 肉系料理の充実 (肉の使用頻度の均一化・ボリュームアップ)

(4) デザート類の充実

- ・ 楽しく食育を学ぶための工夫 (行事・季節のデザートの充実)
- ・ 主食を食べやすくする工夫 (ふりかけの提供)
- ・ 牛乳を飲みやすくする工夫 (ミルクの提供)

(5) 中学生の個人差を踏まえた対応

- ・ ご飯やおかずの量の調整
- ・ お代わりご飯の提供
- ・ 牛乳提供の希望制

(6) その他

- ・ ランチボックスのリニューアル
- ・ アレルギーマッチングへの対応
- ・ 給食利用における利便性の向上

(2) 給食内容の充実(案)と必要経費

中学校給食の魅力化に向けた給食内容の充実(案)と必要経費の試算を行ったうえで、具体的なモデルケース(6案)をもとに検討を行った。

委員からは、物価上昇の影響が食材費を圧迫している実態を踏まえ、給食費改定の必要性についての意見があった。給食費改定の幅については、改定幅がある程度高くても、アンケートで希望の多かった項目が実現するのであれば納得できるのではないかという意見がある一方で、まとまった金額を前払いで支払う方式の中学校給食の場合、月額1,000円を超える改定は負担感を感じるのではないかとの意見もあるなど、委員の間でも賛否があり、概ね案③～④が妥当ではないかという意見が多数であった。

給食内容の充実(案)については、古くから港町として開かれた神戸市において、食育の観点からもパン食は重要という意見のほか、シミュレーション案について、生徒に人気のあるデザートについては案⑥を採用し、別の項目は案④を採用するなど、複数案をミックスすることも検討の余地があるとの意見もあった。

また、給食費改定を行うのであれば、具体的な充実の内容について保護者に示す必要があるとの意見があった。

中学校給食の魅力化に向けた給食内容の充実(案)と必要経費

[1食あたりの必要経費]

(1) 主食の充実・価格上昇への対応

○主食のバリエーションの充実 〔パンやナンの新規提供(1回程度/学期～1回程度/月)〕	2～6円
○価格上昇への対応 〔+約3円増(平成26年度→令和元年度)〕	3円

(2) 牛乳の価格上昇への対応

○価格上昇への対応 〔+約5円(平成26年度→令和元年度)〕	5円
-----------------------------------	----

(3) 温かいメニューの提供

○レトルトメニューの提供回数の増 〔2回程度/月 ⇒ 3～4回程度/月～8回程度/月〕	8～24円
○汁物の提供回数の増 〔月1回程度/11～2月 ⇒ 月2回程度/10～3月～4回程度/毎月〕	1～4円

(4) 副食のさらなる充実

○特色あるメニューの充実・提供回数の増 (行事献立や郷土料理、外国料理、神戸メニュー等) 〔3回程度/月 ⇒ 4.5回程度/月～8回程度/月〕	5～15円
○生徒に人気のある肉系料理の充実 〔肉の使用頻度の均一化・ボリュームアップ(牛肉+70gなど～牛肉+100gなど)〕	10～15円

(5) デザート類の充実

○楽しく食育を学ぶための工夫(行事・季節のデザートの提供回数の増) 〔デザート:2回程度/月 ⇒ 4回程度/月～8回程度/月〕	1～3円
○主食を食べやすくするための工夫(ふりかけの提供回数の増) 〔ふりかけ:1回程度/月 ⇒ 2回程度/月～4回程度/月〕	
○牛乳を飲みやすくするための工夫(ミルメークの提供回数の増) 〔ミルメーク:1回程度/学期 ⇒ 2回程度/学期～4回程度/学期〕	

(6) 物価上昇への対応

○消費者物価指数における物価上昇率を踏まえた対応 〔平成27年を100として、平成30年で食料が103.8、生鮮食品が106.4に上昇〕	10円
---	-----

中学校給食の魅力化に向けた給食内容の充実(案)と必要経費のシミュレーション

(単位:円)

給食内容の充実(案)	案①	案②	案③	案④	案⑤	案⑥
1.食あたり必要経費						
(1)主食の充実・価格上昇への対応	3	5	5	5	5	9
○主食のバリエーションの充実(パンやナンの新規提供)	-	2 (1回程度/学期)	2	2	2	6 (1回程度/月)
○価格上昇への対応(+約3円:平成26年度→令和元年度)	3	3	3	3	3	3
(2)牛乳の価格上昇への対応	5	5	5	5	5	5
○価格上昇への対応(+約5円:平成26年度→令和元年度)	5	5	5	5	5	5
(3)温かいメニューの提供	1	9	9	9	18	28
○レトルトメニューの提供回数の増(現行:2回程度/月)	-	8 (3~4回程度/月)	8	8	16 (6回程度/月)	24 (8回程度/月)
○汁物の提供回数の増(現行:月1回程度/11~2月)	1 (月2回程度/10~3月)	1	1	1	2 (2回程度/毎月)	4 (4回程度/毎月)
(4)副食のさらなる充実	5	5	15	15	20	30
○特色あるメニューの充実・提供回数の増(現行:3回程度/月)	5 (4.5回程度/月)	5	5	5	10 (6回程度/月)	15 (8回程度/月)
○生徒に人気のある肉系料理の充実(肉の使用頻度の均一化・ボリュームアップ)	-	-	10 (牛肉+70g/月など)	10	10 (牛肉+100g/月など)	15 (牛肉+100g/月など)
(5)デザート類の充実	6	6	6	6	12	18
○行事・季節のデザートの提供回数の増(現行:2回程度/月)	5 (4回程度/月)	5	5	5	10 (6回程度/月)	15 (8回程度/月)
○ふりかけの提供回数の増(現行:1回程度/月)	1 (2回程度/月)	1	1	1	2 (3回程度/月)	3 (4回程度/月)
○ミルクの提供回数の増(現行:1回程度/学期)	2 (2回程度/学期)				3 (3回程度/学期)	4 (4回程度/学期)
(6)物価上昇への対応	-	-	-	10	10	10
○消費者物価指数における物価上昇率を踏まえた対応	-	-	-	10	10	10
合計	20	30	40	50	70	100

	現行	案①	案②	案③	案④	案⑤	案⑥
1食単価	300	320	330	340	350	370	400
改定幅	-	20	30	40	50	70	100
月額費用	4,650	4,950	5,100	5,250	5,400	5,700	6,200
改定幅	-	300	450	600	750	1,050	1,550
改定率	-	6.5%	9.7%	12.9%	16.1%	21.2%	30.4%

※月額費用は年間170回喫食した場合の月あたりの平均値で試算

(3) 中学校給食における牛乳の提供

厚生労働省による「日本人の食事摂取基準」や文部科学省による「学校給食摂取基準」などを示し、成長期にある中学生の時期に適切な量のカルシウムを摂取することの必要性を踏まえたうえで、中学校給食における牛乳の提供を希望制にするのか検討を行った。また、家庭弁当の生徒も牛乳の注文ができるようにするのか、合わせて検討を行った。

給食の牛乳を希望制にすることについては、牛乳分のカルシウムを他の献立でカバーすることは難しく、給食におけるカルシウムの摂取量が不足していることを神戸市として認めることになるのではないかと意見があった。

その一方で、冬場を中心として多量の飲み残しが発生している実態があること、また、アンケートでの意見や中学生の嗜好に個人差があること等を踏まえ、牛乳を希望制にすることに賛成の意見も多かった。

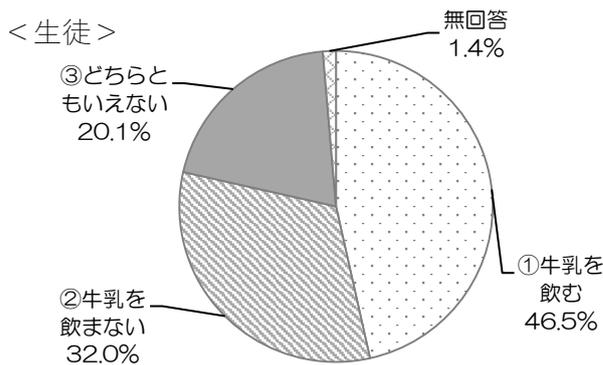
ただし、希望制とするのであれば、10代の時期に十分なカルシウムを摂取することが生涯にかけての骨量に大きな影響を与えることも含めて家庭に情報提供を行うほか、牛乳の飲用について家庭に働きかけを行っていく必要があるのではないかと意見もあった。

また、家庭弁当を持参している生徒も牛乳の注文ができるようにすることについては、適切な栄養量の摂取という観点からも望ましいと考えられることから、賛成の意見が多かった。

<アンケート結果（牛乳の選択希望に関する設問）>

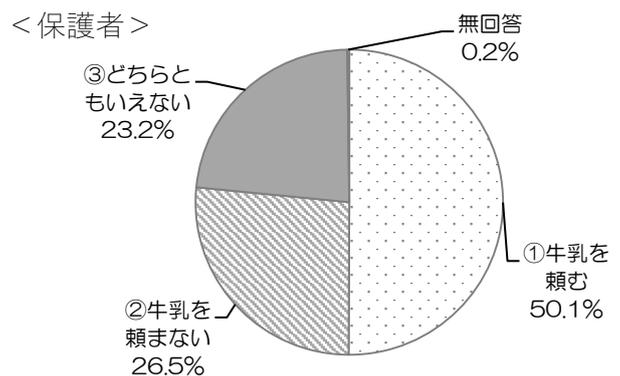
問：給食で牛乳の有無を選択できるとすれば、どうしますか。

給食を利用していない場合でも、昼食時に牛乳を注文できるなら、どうしますか。



<給食利用状況別（牛乳を飲む）>

- 給食利用者：58.0%
- 家庭弁当等：40.7%



<給食利用状況別（牛乳を頼む）>

- 給食利用者：69.4%
- 家庭弁当等：40.1%

カルシウムの食事摂取推奨量・学校給食摂取基準について

○「食事摂取基準」における推奨量

(単位:mg/日)

年 齢	男性	女性
1～2歳	450	400
3～5歳	600	550
6～7歳	600	550
8～9歳	650	750
10～11歳	700	750
12～14歳	1,000	800
15～17歳	800	650
18～29歳	800	650
30～49歳	650	650
50～69歳	700	650
70歳以上	700	650

※出典:厚生労働省
「日本人の食事摂取基準(2015年版)」

○「学校給食摂取基準」における基準値

(単位:mg/回)

基準値	児童・生徒の年齢
290	児童(6～7歳)の場合
350	児童(8～9歳)の場合
360	児童(10～11歳)の場合
450	生徒(12～14歳)の場合

(「食事摂取基準」の推奨量の50%を基準値とする)

※出典:文部科学省
「学校給食摂取基準(2018年8月)」

※牛乳1パック(200ml)あたりのカルシウム含有量:227mg

牛乳の選択の有無による1食単価・月額費用

【牛乳あり】

【牛乳なし】

	1食あたり 必要経費	1食単価	月額費用	1食単価	月額費用
現 行	—	300円	4,650円	244円	3,800円
案①	20円	320円	4,950円	264円	4,100円
案②	30円	330円	5,100円	274円	4,250円
案③	40円	340円	5,250円	284円	4,400円
案④	50円	350円	5,400円	294円	4,550円
案⑤	70円	370円	5,700円	314円	4,850円
案⑥	100円	400円	6,200円	344円	5,300円

※牛乳単価は1食あたり56円(令和元年度単価)で試算
※月額費用は年間170回喫食した場合の月あたりの平均値で試算